

びん がた
企画展「紅型衣裳と型紙」の案内

お し ら せ

3月2日(土)の博物館文化講座は、教育庁文化課渡名喜明専門員を講師に迎え、「紅型の世界」と題し、展示をみながら解説をします。受講希望者を昭和60年2月26日(火)より、当博物館の案内コーナー(電話87-0418)で受け付けます〔先着20名〕

* 昭和60年2月18日より2月25日まで燻蒸、展示替えのため休館です。

この企画展は当博物館に所蔵されている紅型衣裳と型紙を一堂にあつめて、広く県民に紹介することを目的としています。

展示方法は紅型衣裳と紙型の文様が比較できるようにし、あわせて銘入りの型紙も展示します。また復元した型紙で実際に染めた見本を展示し、その工程をカラーパネルで紹介します。

期 間：昭和60年2月26日(火) - 3月10日(日)

場 所：二階ロビーと第三展示室

展示物：

型紙：約175点

紅型衣裳：約30点

紅型衣裳裂地：約25点

(期間中に一部展示替えします)

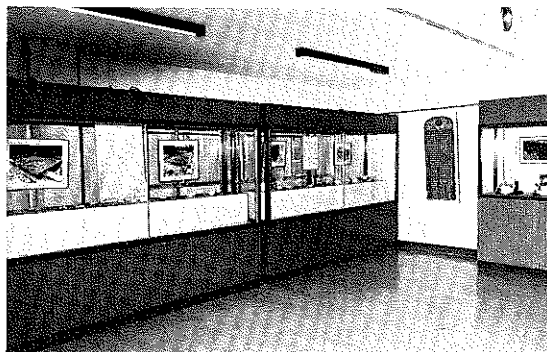
企画展「今帰仁グスク展」開催される

今帰仁グスクは、昭和55年度から今帰仁村教育委員会によって、発掘調査が実施されました。その結果、志慶真門郭内の建物跡、城門から主郭へ通ずる石敷道、主郭の建物基壇など重要な遺構の検出と、中国・朝鮮・タイ・ベトナム・日本など周辺諸国との交易によってもたらされた多くの遺物が出土するなどの成果を上げてきました。

今回の今帰仁グスク展は過去3年間にわたる今帰仁の発掘調査の成果を広く県民に公開しこれを通して、文化財の保護と活用について、多くの人の理解を深めることを目的としました。

展示内容は、今帰仁グスク志慶真門郭内から出土した陶磁器・古銭・鉄製品・武器武具など3百点余と発掘調査で検出された遺構の写真パネル約30点が展示されました。

開催期間は、昭和59年10月16日(火)～10月28日(日)までの二週間、博物館二階ロビーで展示されました。



また、展示期間中の10月21日(日)には、教育庁文化課主任専門員の金武正紀氏を講師に「今帰仁グスクの発掘現場を中心とした史跡めぐり」を実施したところ、募集人員の三倍もの募者がありました。展示解説と今帰仁グスクの発掘現場の詳しい解説をするという博物館ならではの「史跡めぐり」に参加者からは好評でした。

盛況だった第8回移動博物館



今度の移動博物館は、石垣市と石垣市教育委員会及び石垣市立八重山博物館との共催で、昭和59年11月1日より4日にかけて石垣市の八重山博物館で開催されました。

台風接近のため石垣行きの船の出港が危ぶまれましたが、皆の願いが通じたのか、移動博物館の資料を乗せた船は悪天候の中を無事石垣港に着くことができました。

八重山博物館をうめたマンモスをはじめパレイアサウルス、サウロロフス等の大型恐竜は、八重山の子供たちの人気をさらいました。見学者は、先カンブリア代、古生代、中生代、新生代と続く古い時代の生物の化石に感嘆の声をあげ、「古代のロマン」を満喫している様子でした。

雨が降り続くなかでも見学者が途切れなく続き、4日間で14,078人が利用しました。また、期間中には文化講座が並行して催され、当館の大城館長が講演しました。

研究コラム

博物館の空気調和に関して思うこと

空気調和の目的

一般に空気調和とは、室内の温湿度・気流・塵埃・臭気・有毒ガス・細菌などの条件を室内の人間・動物・物品に対して良好な条件に保つこととされている。

博物館は資料を大切に永く保存するという大きな使命をおっている。この使命を果たす手段として、空気調和の方法が導入されているわけだが、ここでは特に温湿度の問題に対する空気調和の在り方について考えてみたい。

● それでは、資料を永く保存するための理想的な温湿度は、どんな条件を満たさなければいけないのだろうか。結論として次の事が言える。

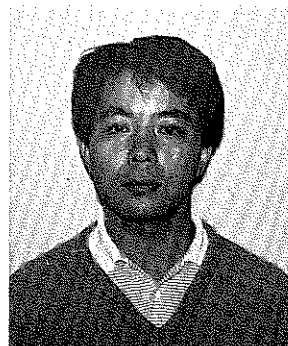
- 1 温湿度の変化がない。
- 2 乾燥による収縮、湿潤による膨張、あるいはカビ及び害虫の発生などを考慮して適切な温湿度（資料各々によって異なる）とする。

現状と問題点

● 沖縄において、空調機器は、夏期の高湿多湿な状態に対するものとして設置されているというのが一般的な見方である。それでは冬期や中間期はどうなるのか。資料保存のため理想的な空気調和を要求する博物館では、当然の事ながら冬期における暖房は必要であるし、中間期にあっても多湿な沖縄では除湿の必要がある。しかしながら、当館では予算の制約もあって高温多湿の時期だけ運転しているのが現状である。これは、一時的なしのぎであって、決して理想的な空気調和とは言えない。

もう一つ別の問題を考えてみることにしよう。空気調和は、室内の特定点で温湿度を感知器によって検出し、熱交換機・加湿機等により適度に冷却・加熱・加湿された空気を室内に送り込み、空気のゆるやかな対流によって最適温湿度にするとする仕組みになっている。当館の現状はどうなっているだろうか。資料は年々増加していきのだが、施設・設備は現状維持のまま今日まで至っている。収蔵庫は、展示室を閉鎖して利用しなけれ

ばならないほど狭隘である。その狭いスペースに、通路も十分に取れないほど多数の資料が詰め込まれている。当然のことながら、空気の対流は資料自体に妨げられ、温湿度は測定点によって異なる結果が出ている。これも理想的な空気調和とはいえない。結局、問題点として予算や設備のことがあげられたが、そこには建築段階における施設の規模・配置・構造など、永い目でみた設置上の問題が内在していることに気がつく。



今後博物館が建設されるならば

● 博物館の空気調和は、設備だけで対応すればよいという考え方ではなく、建築の段階で出来るだけ外界からの影響を遮断できるような密閉系を造り、密閉系内では可能なかぎり空調負荷を発生させず、それでもなお発生する負荷に対して空調設備をあてる方法が理想的な空気調和と思われる。

● 当館の空調設備を担当して思うのだが、設備を理想的な状態で運転するだけの経費確保については、当館のみならず、どこの博物館でも頭の痛い問題として抱えているのが現状ではないだろうか。それだけに今後建設される博物館にあっては、省エネルギー対策は当然のこと、展示室及び収蔵庫に対する空気調和の在り方は、その部屋の建築物に対する配置・構造及び空調機器運転費に関する予算的な裏づけ等をふくめて、建設前の段階で十分に検討されなければならない問題であると考えます。

技師 下地 栄

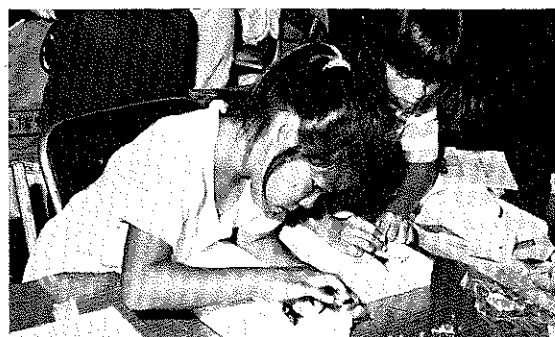
夏休みの博物館文化講座スナップ集



昆虫教室（7月28日）



拓本教室（8月18日）



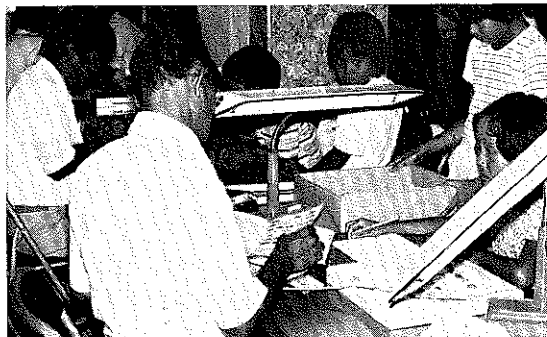
昆虫教室（7月29日）



民具教室（8月26日）



陶芸教室（8月4日）



標本鑑定会（8月26日）



陶芸教室（8月4日）

沖縄県立博物館だより No.22

発行年月日 昭和60年1月29日

編集・発行 沖縄県立博物館

住所 〒903 那覇市首里大中町1-1

TEL. 0988-86-4353
84-2243